

認知症のいろいろな「もしも」に備える①

「認知症」は、老いに伴う病気の1つです。65歳以上の約4人に1人が認知症の人またはその予備群といわれ、今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。ご家族やご自分の認知症を疑った時、その対処法をご紹介します。

もしも

認知症が心配になったら、どこへ相談に行けばよいですか？

①

かかりつけ医や半田市包括支援センター、高齢介護課へご相談ください。ご本人が認知症に関する受診や介護サービスの利用を拒むなど、ご家族が対応に困っている時は、「初期集中支援チーム」が対応しますので、一人で悩まずご相談ください。

認知症に関する主な相談先

○かかりつけ医

まずはかかりつけ医にご相談ください。認知症の診断や治療を行い、必要に応じて専門の医療機関を紹介します。

○半田市包括支援センター（☎23-8144）

○高齢介護課（☎84-0644）

予防教室の紹介、介護や福祉サービスの調整、認知症の症状に合わせた対応等の相談を行います。

初期集中支援チームとは？

認知症やその疑いのあるご本人、ご家族等に対して、医療や介護の専門職が訪問や面接を行い、適切な医療や介護サービスにつなげるために、集中的に一定期間サポートをするチームです。

もしも

認知症の父が最近、道に迷いやすく、行方不明にならないか心配です。

②

認知症による行方不明は、意味もなく歩き回っているわけではありません。外出の途中で、目的地や外出の理由を忘れたための行動です。

事前に準備できること

- ・ 上着や靴などに電話番号を書く
- ・ 連絡先が書かれたカードを財布に入れる。
- ・ 夜間に備えて、靴のかかとや杖に反射ステッカーを貼る。
- ・ 警察署への届出用に、ご本人の写真を準備しておく。

便利な検索機器「SANタグ」

大まかな居場所を特定できる、検索機器を無料で貸与します。位置情報を発信する小さな発信機（GPS機能に似たもの）です。外出時にお守りとしてカバンや杖、上着やベルトに取り付けるなどして、持っていただきます。

もしも

「もしかして行方不明!？」その時は…

③

行方不明が発生した時、ご家族は「もう少し待てば帰ってくる」「周りに迷惑をかけたくない」と、警察などへの相談が遅れる場合がありますが、早めの届出が大切です。

1. まずは落ち着いて、心当たりを探しましょう。
2. 心当たりを探しても見つからない場合は、すぐに警察署（110番）へ相談しましょう。

【問合わせ】 高齢介護課 ☎84-0644